



Legacy™インプラントシステムの臨床応用 —インプラント治療の咀嚼機能改善に注目して—

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座口腔インプラント学
君 賢司

2019年の男性の平均寿命は81.41歳、女性の平均寿命は87.45歳になり、人生100年時代の到来と言われている。そのような中、歯科においては、今後より長期に安定した治療結果が求められていくものと思われる。歯科における長期安定とは、と考えると、変化していく人間の10年、20年先の状態を予測し、その時点においても生体に適合している治療を行えていること、であると思われる。また、欠損補綴を行う上でインプラント治療を選択することは、その他の固定性／可撤性補綴装置と比較して、埋入したインプラントが咬合負担を受けることで、隣接する残存天然歯の保護および咬合負担の軽減につながり、結果として咀嚼機能の長期保存に繋がられる可能性が高い、と考える。本発表においては、Legacy™インプラントシステムを紹介するが、1. Tapered Anatomic形態のインプラントで、アバットメントとの接合はInternal HEX規格となっている。2. Legacy2ではスレッド形状がバットレス（鋸歯状）に形成されており、先端部付近で谷部が深くなるDeep thread Implantである。そのため、Primary Stability（初期固定）に優れた、抜歯即時埋入に適したインプラントであると考えられる。3. ネック部にはミニスレッドが付与されており、皮質骨領域での埋入ストレスを軽減しながらネック部での初期固定を高め、骨のダウングロース抑制効果がある。4. インプラント体と多機能パーツ類をパッケージ化させることで経済性を高め、術式やパーツ発注の工程をシンプルにしたオールインワンパッケージである。などの特徴がある。リーズナブルな価格設定の本インプラントシステムは、コストパフォーマンスの面からインプラント治療をあきらめていた患者に、治療を受ける機会を広げるものであると思われる。本発表においては、Legacy™インプラントシステムを用いて治療されている症例の、埋入前後の咀嚼機能を測定し、インプラント治療にて咀嚼機能を改善することができた症例について紹介する。

【略 歴】

- 1998年 日本歯科大学 新潟歯学部 卒業
- 2002年 東北大学 大学院歯学研究科 修了
- 2007年 日本口腔外科学会専門医
- 2010年 医療法人 君歯会 きみ歯科・口腔外科クリニック 開業
- 2014年 東北大学大学院歯学研究科病態マネジメント歯学講座非常勤講師
- 2015年 日本口腔インプラント学会専門医
- 2018年 日本顎咬合学会認定医
- 2021年 奥羽大学歯科補綴学講座口腔インプラント学 非常勤講師